

10月に入り暑い夏も終わり秋の装いが急に押し寄せてきました。

役場では6月からのクールビズが終了し、ネクタイ着用のスーツ姿になり、山では紅葉が進んで、いよいよ収穫の秋を迎えています。

最近の作況調査では農作物の生育状況も順調との報告を受けておりますので、このまま豊作の出来て秋を迎えたいものです。

それに比して、秋サケ定置網漁業は近年の不漁傾向から抜け出せていません。

漁期間が終了目前であり、不漁の原因が不明なだけに気が揉めるところです。

9月の令和2年度第3回定例議会に提案させていただきました一般議案及び令和2年度補正予算の第59号から第73号について可決決定していただきました。

さらに、報告、承認、同意案件それぞれ承認・同意され、予算額63億8700万円に対して決算額65億4071万5千円となった令和元年度一般会計と8特別会計の決算につきましても認定されました。

た。

浦幌町の予算は「過疎地域自立促進特別措置法」という法律に基づき公共施設などの整備に充てる事業に100%を借り入れるが70%が国から補填されるという「過疎対策事業債（過疎債）」が大きなウエイトを占めています。令和2年建設の「認定こども園」も過疎債を充当して建設を行います。

過疎地域は全国の9%の人口で広大な国土の6割を支えて、美しく風格ある国土の形成に寄与し多面的機能を有していて、食料・水・エネルギーの生産や自然環境の保全により自然災害の防止に大きな役割を果たしています。

また、持続可能な社会の形成、人口減少社会への対応、国土の強化、食料自給率の向上といった国家的課題を解決するために過疎地域が果たす役割はますます大きくなってきました。過疎債は過疎地域の財源の裏付けとなっています。

しかし、その過疎債の法的根拠である現行の「過疎地域自立促進

特別措置法」は令和2年度までの期間となつていきますので、過疎地域は現行過疎法の継続を見据えて新たな法律制定を求めて国に強く働きかけているところです。

今年の米寿88歳の敬老お祝い金と感謝状を53人の皆様に、また100歳を迎えられた2人に安倍内閣総理大臣からの銀杯と感謝状をお渡しすることが出来ました。皆さんお元気でした。

人口減少になんとか歯止めをしないと各種取り組みを進めていまいが、今年は新型コロナウィルス感染症対策でマスクの着用と手洗いななどの衛生管理が進んでいる影響もあるのでしょうか、インフルエンザ感染者が少なく、皆さんがお元気で暮らしていただいているおかげで、4月から人口の自然減少に少し歯止めがかかってきました。

また、社会的人口はプラスとなり、この傾向が短期的に終わることがないことを期待しているところです。

先日、浦幌農協さんから新型コロナウィルス感染症で落ち込んだ

大阪の銘菓「月化粧」の売り上げを応援しようと町内の保育園、幼稚園、小中学校の生徒と先生たちに贈呈していただきました。

「月化粧」は浦幌町の農家12軒に特別に栽培委託している「絹手亡」を原料にしているお菓子で、「絹手亡」は普通の豆より栽培に農家の皆さんの手がかかるようですが、それだけに貴重な豆ということです。

有名な虎屋のヨーカンの原料が浦幌町の小豆だということは知っている人が多いとは思いますが、浦幌町の「絹手亡」からも大阪の銘菓が産まれていることを初めて知りました。

これで浦幌町の豆自慢が一つ増えました。これから季節の変わりめで

体調管理に気をつけると同時に、交通違反の撲滅と交通事故に遭わないように路面状況の変化に注意するようにお願い致します。

浦幌町長 水澤 一廣

COLUMN

連載 115

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部

教授 平岡祥孝

晩秋から初冬へと、北海道の季節は急ぎ足で移り変わっていきます。今は政策や改革もスピード感が問われるようになりました。コロナ禍における例の給付金問題が典型的です。

もちろん「巧遅は拙速に如かず」あるいは「兵は拙速を聞き」という故事もあります。けれども、国の規制改革や行政改革であれ、大学入試制度改革であれ、企業の組織改革や働き方改革であれ、はたまた小売店舗改革であれ、改革の大小を問わず改革を成功裏に導くためには、入念に準備を整えなければなりません。緻密な積み上げ型の検討と精緻な工程表が必要です。加えて、不測の事態にも備える臨機応変な管理運営体制が求められると思います。改革を志して一旦取り組むと決断したならば、改革者は純粋な改革理念を抱きながら、その実現に向けて執念を燃やして、力量と手腕を発揮し続けなければなりません。

す。ですが、今年7月に日本生産性本部が実施した調査によれば、「在宅勤務で仕事の効率上がった」との回答は50%ありました。2人に1人の割合ですね。また、今年5月に「T大手のレノボが実施した調査では、「在宅の方がオフィスより生産性が下がる」との回答は40%でした。ちなみに米国は11%でした(『日本経済新聞』2020年9月29日付記事)。この差は、やはり雇用形態の相違からか。

言つまでもなく、米国はジョブ型雇用主体の雇用形態であり、日本はメンバーシップ型の雇用形態が一般的です。タスクを明確にしたジョブ型雇用を拡大させていくという雇用改革と抱き合わせでテレワークを普及させつつ、それぞれの企業組織にとって最適な組合せを導き出す必要がありそうです。いわゆる現場の声に耳を傾けて、身の丈にあった改革で十分なのではありませんか。企業体力に合わせて無理をしないことも肝要かと。そのためには、経営職・管理職が足元を見つめ直すとともに、足元を固めていかなければなりません。

耳学問だけの無能なお方が「時流に乗り遅れてはならない」と、権限を振りかざして「改革ごっこ」の誘惑に駆られたならば、まさに「殿のご乱心」。改革の掛け声は羊頭狗肉、改革の動きは竜頭蛇尾。そして、当初から予想されていた哀れな結末を

迎えると、これまた後始末が大変です。振り回された周囲には散々迷惑をかけることとなります。過ぎたるは及ばざるが如し。その痛手が大きければ大きいほど、組織の再建は困難を極めます。

あらためて考えるに、改革を志す者には、何よりも人望に裏打ちされた対話力が求められると思います。やはり人は、命令・統制だけでは面従腹背になってしまつことが少なからず。経営職と管理職の間で、管理職と一般の従業員や職員との間において、改革の価値観をすり合わせる必要があるのではないのでしょうか。ただし認知機能は人それぞれです。たとえば、年長者の部下には論理的な説得もさることながら、かつ長幼の序を弁えつつ丁寧に説明して納得してもらつことが大切でしょう。新人さんのような経験が浅い部下ならば、その感情を受け止めつつ共感的理解を促さなければなりません。

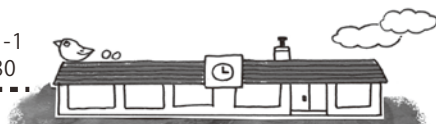
改革は大胆にして、細心でなくてはなりません。経営者格差の時代を迎えた気がします。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

Tokomuro lab 通信 vol.7

浦幌町字常室 51-1  
Tel: 015-578-7580



『冬の常室ラボ』

こんにちは、常室ラボ長の三村です。常室カフェをしたり、「新しいしごとの創造拠点」である常室ラボ(以下ラボ)を運営したりしています。ラボを身近に感じてもらいたいと思い、常室ラボ通信を始めました。さて、今回は冬の常室ラボのお話。少し早いような気もしますが、「冬は開いてるの?」と聞かれることも多くなってきましたのでお答えしようと思います。昨年からは冬も開けていて、今年も開校予定です。「寒そう!」と思われがちですが、各部屋の窓は大きく多く、南向きなので晴れば暖房なしでも暖かく過ごせます。天気が悪いと少し肌寒いですが、(笑)そんな日や真冬になれば、薪ストーブやダルマストーブを炊きます。部屋の中は気密性も高いので「思ったよりあったかい」と言われる方が多いです。雪が降れば校庭は銀世界。銀世界を眺めながら、ゆっくり考えごとをするのもいいですね。短い秋を楽しみつつ、冬支度も。それではまた。

【開校時間Opening Hours】

定休日 火曜・水曜

ラボ 10:00-17:00  
キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります!ぜひ遊びに来てください(AO)

カフェ 土曜、日曜  
11:30-15:00・ランチタイム  
15:00-17:00・カフェタイム  
校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理とスイーツでリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!